

発行/坂城町公民館 発行人/塚田 常昭 編集/広報部 印刷所/滝沢印刷(同)
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



「リトミック教室 七夕飾り」

さかきふれあい大学の講座が開講しました！

新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため延期していた、さかきふれあい大学講座を7月1日(水)から開講しました。詳細は6ページから

◆主な内容◆

- ふるさと探訪PART108 2~5P
- 行事から、500字リレートーク 5~7P
- お知らせ、館説 開畝 8P

お知らせ

さかきふれあい大学教養講座 山と私たちの生活

期日 10月24日(土) 午後2時~4時
会場 文化センター 大会議室

第1部 「山城を歩く」

講師 中嶋 豊先生

第2部 顕在化する温暖化の影響 —ライチョウをいかに守るか

講師 中村 浩志先生

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、事前申込み制、定員70名となります。



中嶋 豊先生



中村 浩志先生

リトミック教室後期受講者募集

リトミック教室後期受講生を募集します。音楽(リズム)を用いて人間形成に欠かせない「社会性」、「創造性」、「感受性」を育てる楽しい講座です。親子で参加して下さい。

期日 10月7日~2月24日 毎週水曜日
午前10時~11時30分

会場 文化センター 大会議室

指導者 中沢敏江さん
(リトミック研究センター特別講師)

対象 1歳半~3歳児とその保護者

受講料 4,000円

行事中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染防止のため、次の行事を中止することになりました。ご理解いただきますようお願いいたします。

- ・第60回町民運動会 10月 4日(日)
- ・第42回交通安全町民大会 10月 4日(日)
- ・第49回坂城町文化祭 10月24日(土)・25日(日)

作品展示の募集

文化センターの1階・2階のギャラリーに、サークル活動等の作品を展示しませんか。展示を希望される方は、文化センターまでお問い合わせください。

今後の行事予定

※新型コロナウイルス感染防止のため、変更になる場合があります。

- ◆ウォークラリー大会 10月17日(土)
- ◆スポーツ少年団交流大会 12月13日(日)
- ◆元旦マラソン 1月1日(元日・金)
- ◆席書大会書初展 1月4日(月)~6日(水)
- ◆スキー・スノーボード教室 1月17日(日)
- ◆分館対抗球技大会 2月21日(日)
- ◆子ども茶の湯教室 3月6日(土)
- ◆坂城町囲碁大会 3月14日(日)
- ◆坂城町将棋大会 3月21日(日)

館説 開畝

この夏も、とても暑くなりましたね。今年は、新型コロナウイルスの感染防止のためマスクをしていたので、暑さが一段と厳しく感じました。夏に咲く代表的な花に、朝顔があります。小学校では、一年生の子どもたちが、春に種まきをして、朝顔の成長を観察します。そして、夏休みには家に持ち帰り、いくつ花が咲いたかを調べたことを思い出す方もいるのではないのでしょうか。

夏の風物詩となっている朝顔ですが、いつごろの時期から花を咲かせるのでしょうか？

普通に外で育てている朝顔は、ある時期をすぎないと花を咲かせません。早く花を咲かせたいと、早く種まきをして、ある時期をすぎないと花芽をつけません。

その理由は、朝顔の葉は、お日様が沈んでいる暗い時間が一定以上になると、花芽の形成をうながすアブジン酸という植物ホルモンを作ります。その植物ホルモンがツルに移動して、花の芽を作るよ

うに命令し、花が咲きます。普通以外で育てている朝顔が花をつけるのは、どんなに早くても、夜の時間が9時間以上になる6月の終わりになります。8月になると夜の時間は10時間以上になるので、つぼみがたくさんつき、花をたくさん咲かせます。ただし、夜も照明がついているなど明るい場所では、花が咲くのが遅かったり咲かなかったりすることもあります。

このように、お日様が沈んでいる暗い時間が一定以上になると花を咲かせる植物を「短日植物」といいます。短日植物は、「暗い時間が一定以上になる」ことをきっかけに花をつけますので、夏至(6月20日前後)が過ぎるまでつぼみができません。朝顔の他にも短日植物の仲間には、これからきれいな花を咲かせるキクやコスモスなどがあります。

朝顔の花がきれいに咲くためには、暗い時間が続かないといけません。今は、新型コロナウイルス感染症が広がり、世界中が暗い雰囲気になっていきます。この暗闇の先には、必ず明るい未来が待っています。みんなが今の厳しい現状に耐え、その後待っている明るい未来に大きな花を咲かせましょう。(T・T)

リトミック 教室

文化センター大会議室で体を動かしながら、楽しく音感が身につくリトミック教室が今年も開講しました。中沢敏江先生の指導により、元気な声が響いていました。7月8日（水）には、七夕にあわせて飾り付けを行いました。みんなのお願い叶うといいな。



後期受講者を募集しています。詳しくは8ページをご覧ください。

キッズ スポーツ教室

キッズスポーツ教室は、幼少期のお子様、いつもと違うお友達と運動をしたり、楽しいレクリエーションゲームを通じてスポーツに親しみ、豊かな想像力を育んでいきます。長野体育指導センターの市村先生の指導のもと、1年間元気よく活動してきます。



5000字リレートーク
「カレー食いてえ」
藤岡 慧

私は現在大学院で生命科学に関する研究をしています。研究を通じてAIと人間の違いや、人間の持つ尊さについてもよく議論を行っています。そんな環境に身をおく私が感じた「人間にしかないもの」について。

ある日の家路、斜陽の時刻でした。近所の家から微かにカレーの匂いが。その家庭ではどんなカレーが出てくるのだろう、家族団欒で食べているのだろうかといろんなことを想起しましたが、圧倒的に感じたことは「俺もカレー食いてえ」でした。その日の夕食はカレーを作りました。一人暮らしの僕が作ったそれは、昔母が作ってくれたカレーに敵うはずもなく、少し寂しい



味ではありましたが、食べながら感じたことがありました。あいつら（AI）はカレー食いてえなんて思わないよな、と。今のところ、あらゆるシステムには、何かをしたいという自発的な動機はありません。そう思うと、ちつぽけでくだらないこの欲求も、非常に重要な価値を持っているように感じたのです。

科学がどんなに発展しようとも、斜陽とカレーの匂いもたらしたこの感覚を、私たち人間に残された最後の希望だと信じていたい。そんなことを願う夕暮れでした。

次は、宮嶋一浩さんです。

特集 ふるさと探訪 PART 108

～ 坂城の山城（葛尾城跡編）～

この秋、第27回全国山城サミット 上田・坂城大会（主催：全国山城サミット上田・坂城大会実行委員会）が開催されます。全国の山城研究者、愛好家が注目するこの大会は、2日間の日程で、第1日目に山城ガイドツアーが予定されています。坂城町内では、千曲川右岸の葛尾城跡、和合城跡がコースとなっています。今回の「ふるさと探訪」では、葛尾城跡について探っていきます。



写真1 埴科頭首工付近から見た葛尾城跡

葛尾城跡はどこにある？
まずは葛尾城の立地を見てみましょう。
町の右岸側（東側）から千曲市方面を向くと、屏風のような山並みが目に入ります。千曲川から生えてきたような山は矢場佐間山、その隣に見える大きな山が葛尾山です。その頂上、標高八〇五mの場所にあるのが葛尾城跡で、麓の坂城神社からの比高は三七〇mほどあります。今から四〇〇年ぐらい前、主に戦国時代後半に使われた山城です。城跡とは、城であった場所、今は使われていないことを



写真2 千曲市方面

指しています。当然なことのようにですが、これはとても大事なことです。
【写真1】
みなさんは葛尾城跡へ登って見たことがありますか。主郭からは千曲市・長野市方面、上田市方面の両方へ眺望があり、他の山城との連絡がよいことや、千曲川の幅が狭まり、街道・水運を抑える立地であることが分かります。敵軍の動きも容易に捉えられたでしょう。たぐさんの利点に気付きます。逆に言えば、この城を敵に奪われると目が行き届かず、防衛上、



写真3 上田市方面

大変不利になります。
【写真2、3】

いつ、誰が築いた城か

葛尾城がいつごろ築かれたのか、よく分かっていません。村上郷に拠点を置いていた村上氏が、坂城郷に居館を構えていた地頭の薩摩氏を討ち破ったのが、建武二年（一三三五）のことです。築城したのが薩摩氏であればそれ以前であり、村上氏であればそれ以後だと考えられます。しかし、長く居城として使用したのは村上氏であり、一般的には村上氏の城として知られています。平時は麓にある

居館で活動し、非常時に山城へ籠ったと考えられています。居館跡（現・満泉寺）と合わせて、「村上氏城館跡」として長野県史跡に指定されています。矢場佐間山の頂上にある姫城と、千曲市磯部との境にある岩崎城を含めて葛尾城と呼ぶこともありますが、ここでは葛尾山上の本城のみについて言及します。

村上義清の時代

戦国時代の城主、村上義清の時代は、敵が攻めてきたら山城に籠ってしのぎ、敵の兵糧や体力が消耗して、自ら去るのを待ちました。攻撃側も、山に籠った相手を深追いはしない慣習だったようです。そのころ信濃国内では、豪族同士の争いはありましたが、信濃一国を制圧して領国化する大名はおらず、激しい衝突にはなりません。甲斐の戦国大名・武田信玄が侵攻するようになって、信濃の情勢は一変します。葛

さかきふれあい大学各種講座が スタートしました!!

今年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため4月からの開講を延期していた「公民館文化講座」、「リトミック教室」、「キッズスポーツ教室」が7月1日(水)より開講しました。

新型コロナウイルス感染症の予防のため、各講座において新しい生活様式の中で対策を講じながら、楽しく講座を行っています。**さかきふれあい大学の後期講座の申し込みが、9月23日(水)から始まります。**まだまだ新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況ですが、ご参加をお待ちしています。

坂城町公民館文化講座

俳句	短歌	茶(表千家)道	茶(裏千家)道	NEW 楽詩をむ	NEW 季節の郷土料理
		盆裁	古文書	絵画	陶芸
				木彫	書道
				コーラス	

文化講座

7月1日(水)、「令和2年度坂城町公民館文化講座開講式」を開催しました。13講座15教室の学びが始まりました。

今年度は「季節の郷土料理」「詩を楽しむ」の講座を新たに開講しました。皆さんも何か始めてみませんか。今回は、いくつかの講座の風景を紹介します。



季節の郷土料理



詩を楽しむ



茶道 裏千家



俳句講座

尾城はどうなるでしょうか。

武田氏侵攻と葛尾城の自落

義清や葛尾城についての記録は、武田氏との攻防の中に記されています。天文二十二年(一五五三)、武田氏は諏訪、松本方面を制圧し、川中島方面へと軍を進めてきました。これより前に佐久を攻めて勢力下にしていたため、村上勢は武田勢に挟まれるような状況です。信濃の豪族同士の争いと違い、武田軍は領土拡大を目指しており、佐久の志賀城攻めでは抵抗した相手方に凄惨な殺戮も行いました。天文十七年の上田原、十九年の砥石城の戦いでは武田軍を追い返した義清でしたが、国力・兵力を増して攻めてきた武田軍に周辺豪族が次々と味方していく中、四月九日、自ら葛尾城を落城させ、坂城を抜け出しました。

義清のあとに使われていた

葛尾城

自分の城を壊して去るのはなぜでしょうか。葛尾城は軍事的によい立地です。敵に利用されにくくしたと考えられます。このあと葛尾城は武田氏の家臣が入りますが、同じ月の二十三日、村上勢によって討ち取られています。しかし義清は葛尾城を拠点にせず、建武年間から村上氏が領有していた塩田(上田市)へ動き、八月には信濃を出て越後の上杉氏を頼りました。この後、しばらく葛尾城のことは文献に出てこなくなりませんが、川中島地域をめぐる甲越の戦いのきっかけとなった城として、後世に知られるところとなりました。



写真4 三の郭周辺から主郭を望む

さて、義清が去って半世紀ほど経った慶長五年

関ヶ原の戦いと葛尾城

と、織田氏は撤退し、今度は上杉氏が信濃を治めようとした。そこへ徳川氏や北条氏も入ってきたため、信濃は義清の頃よりも激しい戦場となりました。特に坂城郷・村上郷は埴科郡・更級郡と小県郡との境目で、上杉氏と北条氏の勢力のせめぎ合いの地でした。今回ガイドツアーのコースとなる和合城は、そのとき上杉氏の前線として重要な役割を果たした城なのです。このような中、葛尾城も戦い使用され、変更されていたと考えられています。

(二六〇〇)に、「葛尾という山の取出(砦)」で真田昌幸の家臣が、徳川秀忠の配下にいた森忠政の兵と戦ったという記録があります。秀忠軍は関ヶ原へ向かう途中、上田城を攻めたものの落とせず、真田氏を監視するため坂城の山城に兵を置いていました。この記録には二の丸、三の丸の言葉が見え、柵や木戸があったことなども記されています。この砦は葛尾城のことだと考えられています。城より小規模な砦という言葉が使われたのは、この戦いの頃の城が大規模な近世城郭(海津城や松本城のような城)となっていて、葛尾城のような山城は小規模な

砦と捉えられたためです。現在残る姿は、この頃のものでしょう。この後、元和元年(一六一五)に江戸幕府が一国一城令を出し、大名の居城以外の城は破却され、葛尾城も役目を終えました。【写真4】

いよいよ散策、葛尾城跡
ここからは構造を探りましょう。山城は、その立地から開発の手が入りにくく、比較的当時の姿を残している史跡です。「当時」とは、先に述べたとおり戦国末期のことを指します。

○上がったりがったり：堀切を越えて歩く
葛尾城は主郭を中心に、尾根上に堀切や郭が連続して造られています。堀切とは山を切り取って敵の動きを遮る施設で、葛尾城では、深いものは一〇mほどあります。堀切は主に五里ヶ峰方面から続く北尾根に見られます。大小いくつも造られ、主郭への侵入を



写真5 大きな堀切

困難にしています。
【写真5】
現在は登山道を歩けますが、当時は急な斜面を甲冑を着て攻め上がらねばなりませんし、上から槍や弓矢で攻撃されたことを想像すると、非常に危険な場所だと分かります。改めてここが戦場だったと思い知りませう。

山を切ると言っても葛尾山は岩が多い山ですから、相当な労働力が必要だったでしょう。
○きよらきよら…
主郭から矢場佐間山方面には郭が続きます。郭とは、山の一部を平らに削り、兵



写真6 主郭。奥の盛り上がり土塁跡

葛尾城の構造はあまり複雑ではありませんが、五里ヶ峰方面に進むと、不可思議な構造物があります。
【写真7】

尾根の上に、平らな石が積み上げられています。葛尾城跡の中に一箇所だけの施設です。これがいつ作られたのか、何のためなのか、まだ分かっていません。しかし、この遺構をきちんと保存し後世につなげていけば、歴史学・考古学・土木工学などの知見を得て、いつか解明される日も来るでしょう。



写真7 尾根上にある石積み

百姓にとつての葛尾城

ここまで、武士の側から葛尾城の歴史や構造をみてきました。私たちの先祖・百姓（農民）にとつてはどんな存在だったのでしょうか。義清の時代は、敵が来たら山城に籠ってやりすごした、と先に述べました。籠ったのは兵だけでなく、百姓もです。敵兵が収穫前の農作物を刈り取ってしまったら、田畑や家に火を放つたりすることもあったため、里にいたことは危険でした。籠る、とは日常生活を一旦やめて逃げ込むことです。つまり、避難です。避難す

江戸時代以降の葛尾城跡

江戸時代には、「古城」として北国街道を行く人々に記録されました。坂本宿ふるさと歴史館で展示している絵図には、「かつらを」の山の上に「村上義清、山城」と書かれています。武田、織田、上杉と領主が入れ替わって行ったにもかかわらず、江戸時代には村上氏の、特に義清の城と認識されていたことがうかがえます。
【写真8】
主郭の北側に「明治十八年三月再建」の銘が入った祠があります。少なくともこれ以前から、義清を祀る葛尾神社があったことがうかがえます。

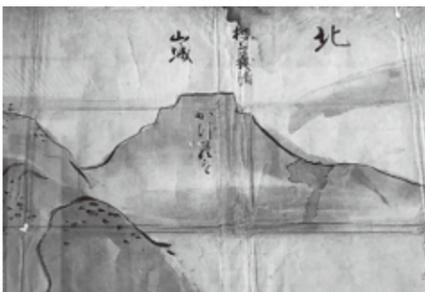


写真8 延宝6年「幕府裁許絵図」(部分)

を何人も置いておける空間です。主郭の下に二の郭、三の郭が残っています。一見、自然の地形に見えますが、よく観察すると気が付きます。その先の小さな郭も探してみましよう。郭の端は土手を作って防衛を固めました。この土手を土塁と呼びます。主郭の北側に、今もはっきり見ることができま。【写真6】
秋から早春の落葉期には、麓からも堀切や郭の形がよく見えます。これほど山城にも言えます。冬になったら周囲の山をよく見えてみましょう。

○これは何?...
分からないこともある



写真9 義光公六百年祭の様子

時代が下って昭和の初めには、葛尾城跡で「村上義光公六百年祭」が執り行われ、義清に限らず、村上氏の顕彰の場となりました。鎌倉幕府倒幕の際、後醍醐天皇に忠誠を尽した村上義光・義隆父子が、昭和の軍国主義の高まりの中で注目されたのです。祠の手前に

現在、みなさんにとつてはどのような存在でしょうか。いつも見ている山、近場の登山コース、展望スポット、遠足で登った思い出の場所...など、人それぞれあると思います。
毎年四月下旬から五月初めの八十八夜祭には、大宮区で葛尾祭と葛尾登山を行っています。また、主郭周辺の整備を、大宮区の「葛尾城跡保存会」のみなさんが担ってくださっています。地元の方々が努力し、関わり続けているからこそ、葛尾城跡として私たちの時代にも残されているのです。町内の他の山城でも、各団体が整備を行っています。こうした山城保存に関わる方々の活動を広く知っていただくことも、全国山城サミット上田・坂城大会の開

【写真9】
このように、義清が去ったあとも、葛尾城は村上氏の居城として語り継がれてきました。

未来へつなぐ努力

大勢の人が詰めかけました。拝殿や記念塔が建てられ、

催目的のひとつです。

おわりに

冒頭で「今は使われていない」ことを少し述べました。それは今はこの国の中で戦争をしていない、というだけでもあります。当たり前でしょう。戦国時代以前にも、日本国内で戦乱がたくさんありました。政治的な敵対が、武力による衝突を引き起こしたのです。戦国時代には、不安定な気候で凶作続きだったことも争いの要因となりました。同じ言葉を話す、同じ神仏を信仰する、同じ国の人が士が戦争をした時代が、私たちの暮らす土地にあったのです。物語ではなく、私たちの先祖が体験したことです。私たちの身に起きないと言いつけることではありませぬ。しかし先祖は勇気を出して武器を手放し、城を離れ、争いのない社会をつくることができました。そのことを、山城は教えてくれます。史跡を学び保存

る場所は、多少不便でも安全でなければいけません。高い山の上であれば、敵からの距離が保てるだけでも安全です。

また、神仏に護られた土地として、宗教的な場に山城を築いたという説もあります。葛尾山も麓に坂城神社など寺社を多く擁しており、宗教的な場と言えるのではないかと思います。『ふるさと坂城の地名』によれば、周辺には虚空蔵山、愛宕山、飯縄山などの宗教的な地名も見られます。飯縄山（飯綱山）は葛尾山中腹の石英斑岩が大きく飛び出ている山で、岩の根元に祠が祀られているのを登山道から見ることが出来ます。そもそも、古代から中世の人々は、山に対して畏れを感じ、非日常空間＝人間以外の世界とみなしていました。戦国時代の坂城の人々も、葛尾山の靈威に守られた葛尾城を、安心できる避難所だと見ていたかもしれません。

していくことは、豊かで安心な郷土の未来につながっていると思います。
(本間美麻)

笹本正治 著

『葛尾城を歩く』

(坂城町教育委員会)

一九九三
定価：千円

村上義清と葛尾城について、一番詳しく、一番やさしく記した本です。全編にわたって父と子の問答による記述になっており、会話を楽しむうちに理解が深まっています。葛尾城を歩きながら解説しているので、山城の入門書としても読めます。(二七頁)



文化財センター、坂本宿ふるさと歴史館、鉄の展示館で頒布中!